

平成23年12月23日、24日に国立オリンピック記念青少年総合センターで第4回ピアカウンセリング全国大会が開催されました。第1日目は各県の活動紹介、北村邦夫先生によるデートDVについての講演会、デートDVを題材にしたケーススタディでのブラッシュアップが行われました。また、第2日目は都内各地へ配布物を持ち、STI、HIV/AIDSの予防啓発活動を行いました。今回は、参加したピアっこ、養成者の感想を送ります。

◆「第4回ピアカウンセリング全国大会」開催◆
～広げようピアの輝き X'mas in Tokyo～

◆ピア全国大会 in 東京 1日目に参加して◆

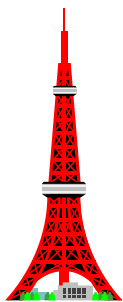
～デートDVの講演とケーススタディを体験してみても～

ピアカウンセラー養成研修生 幸崎若菜（ピアネーム：わかめちゃん）

今回全国大会に初めて参加しました。各地でのピアっこの活動が知れたこととピアっこたちが各地の仲間と交流し楽しんでいる姿が見れて、嬉しかったです。

私自身、2010年度に養成者養成講座を受講し、その後研修生になったのですが、実際にはピア養成の場を持ち合わせていないこともあり、ピアっこたちとの関わりを持てるのが年に数回と限られているため、その都度、「ピアっていいよなあ。」とか「ピアって難しいなあ。」と常に原点回帰させられています。

1日目、JFPA市谷クリニック所長北村邦夫先生からのデートDVの講演がありました。スライドやデータを使って、ピアっこたちにわかりやすく、またデートDVがいかに身近な問題であるかを伝えていたように感じます。携帯の覗き見や相手の行動に過干渉するようなことは、恋愛している男女にとってはよくあることで、それが問題であることに気づかない若者も多いのではないのでしょうか。ピアカウンセラーとして話を聞く上で正しい情報を持つておくことはとても大切なことです。



しかし、実際にピアカウンセラーとしてデートDVの問題に直面した時には対応に困るのではないかと感じました。ケーススタディを通して、ラーさんの気持ちに寄り添うことよりも、どうすれば相手に自分の気持ちをわかってもらえるかといった問題解決の方法を探ろうとしているグループが多く見受けられ、養成研修生である私もその傾向にありました。「デートDVの事実があり、問題だ！」と感じてしまったからには、「それを解決してあげなきゃ！」とか「解決するにはどうすればいいか？」と必死で考えてしまいますが、それではピアではないのです。目の前にある問題に注目するあまり「個人的なアドバイスは与えない」・「カウンセラーが抱える問題の責任はとらない」と言った原則が抜けてしまっ

す。ラーさんの気持ちに寄り添うことがピアとして本来あるべき姿なのに。ラーさんが自分の気持ちに気づき、自分で問題解決をしていく過程に寄り添うことが大事です。

今後ピアっこたちがデート DV に関する活動をしていく中で、ピアカウンセリングによってラーさん自らが問題解決できるケースもあれば、そうでないケースに遭遇することもあると思われます。生命の危機を感じるような深刻なケースに遭遇した場合、ピアとしてできることとできないことがあるので、ピアっことして対応に苦慮する場合などは養成者やコーディネーターなどの力をかり、専門的な支援をしてくれる機関への引き継ぎも必要になるかもしれません。

私の勤める病院では早くから DV に関する支援をしていますが、予防啓発活動の面ではあまり力を入れられていない現状があります。ピアっこの活動を通して、一人でも多くの若い女性たちにデート DV に関する知識が広まることで予防啓発になり、さらには被害の早期発見・早期解決につながることを期待したいです。

◆街頭活動～X'mas の東京にピアッ子からのプレゼント～に参加して◆

ネネ（山下 博子 養成者2期生）

新宿の街角に立ち、ピアッ子達が道行く若者にチラシ（ Condom ）を配布する姿を見ながら、初めて街角に立つピアッ子にとって、声を出して思いを届ける経験は勇気のいることだったと思う。声をかけてチラシを差し出してもそのまま通り過ぎる人も多く、時にはこころ折れることもあったのではないかと・・・。また、ピアッ子から受け取ったチラシを開けながらニコニコして通り過ぎる高校生グループや、これから合う友達にも渡したいからとピアッ子の元に戻ってきた若者もいたという、うれしいことも。

一人では出来ないことも、仲間がいることで実現できる良い経験だったのではないかとと思う。この企画の実現までには、実行委員はじめ多くの方々の準備があつてのことと思う。ピアッ子の願いがどうぞ多くの若者に届きますようにと願わずにいられなかった。



◆課外活動 ～X'mas の東京にピアっ子からのプレゼント

新宿第2グループ ルミネ前で◆

引率者 桐生大学 ランナー (中原國子)

若者支援です。と、呼び掛けて資料の配布活動に望みました。最初はなかなか受け取ってもらえず苦戦していましたが、この第一声で学生も少し勇気が出たようでした。その声かけに立ち止まってくれる若者や、ペアー（恋人）が、受け取ってくれるようになりました。交差点での待ち時間では、活動の趣旨や内容を聞いてもらうこともできました。自分の配布が終わった学生は、配布が残っている学生を手伝い協力していました。この場所は恋人同士が多かったのですが両手がふさがっている人にはなかなか受け取ってもらえませんでした。高校生は部活帰りのようなユニホーム姿がちらほら見られました。そんな中で真剣に声をかけ啓蒙活動をしました。全部配布し終わった学生の顔は安ど感と笑顔で美しく、それが目に焼き付いています。



◆ 課外活動に参加して ◆

愛媛県：ピアネーム媛

12月24日（土）午前中にたすき作りをしたピアっ子は11グループに分かれ、渋谷・原宿・新宿・高田の馬場・下北沢で課外活動を実施した。私が参加した下北沢では、ピアっ子2人で駅を利用する10代の人を対象に配布を開始した。

はじめはどう声をかければ良いか戸惑っていたピアっ子も勇気を出して挑戦。成功すると「やったね」と笑顔が出る一方、何度か断られるとだんだん弱気になってくる。受け取ってくれた人に対しても「捨てられないかなあ…」と不安気な表情。「大丈夫よ。いまの高校生、『この前の授業で習った…』って言うたよ」と声をかけると「その言葉うれしいけど、～」となかなか頑張れなくなり、とうとう「媛さん。お手本見せて…」と。ここは良いところを見せたいところだが、見事2連続失敗。ところが今までなかなか前に出られなかったピアっ子が声をかけ始めた。風は冷たく、手もこころも冷やしていく。断られるたび、こころが折れそうになる。あきらめかけた時、「私が一緒に声をかけてあげる。最後まで一緒にやろう…」と他のピアっ子が手を差し伸べる。リーダーのひろみは、2つのグループを見ながら調整したり、励ましたり…みんなの力で目標達成。みんながいるから頑張れる。仲間の一人ひとりの力を信じているからみんなで支え合える。寒い中、課外活動…本当にありがとう。みんなに出会えたこと、一緒に活動させてもらったことにとっても感謝しています。本当にありがとうございました。

◆街頭でのコンドーム配布の感想◆

ピアカウンセラー養成研修生 幸崎若菜（わかめちゃん）

クリスマスイブの池袋サンシャイン通りは人で溢れかえっていました。現地に到着し、寒さと緊張でピアっこたちの顔がどんどんこわばっていき、少しでも緊張をほぐせたらと思い、受け取ってもらえなくてもめげないで笑顔で声をかけていこうと励ましあっていました。「こうやったら受け取ってもらえたよ」「グループの方が受け取ってもらえるよ」などと情報交換しつつ、協力して1時間で予定数配り終えたときにはみんな笑顔でした。冷たくなった手を握り合い、「池袋の思い出ができた!」と言われ、「どんな思い出?」と聞き返し、辛い思い出になったらどうしようという不安がありました。が、「楽しくていい思い出!」と笑顔で返してくれたので、ほっとしました。初めて街頭でコンドームを配布するピアっこが多かったのですが、1時間半の間にとっても成長し、仲間意識が芽生えた姿を見ることができ、私自身も池袋のいい思い出ができました。

〈編集後記〉

第1回2回のピアカウンセリング全国大会で実行委員として関わり、今回第4回ピアカウンセリング全国大会があると聞いて、当日参加しました。久しぶりにピアに関わると、「心が洗われるなあ」というのが率直な感想です。また、ピア活動がどんどんグローバル化していることに感動しました。

看護師として働いて4年が経ちます。自分が学生るとき、楽しくいきいきとピア活動できていたのも、それを支えてくれる支援者がいたからだと思っています。今回全国大会に参加して、ユース活動を支えている養成者の方々、支援者の方々と色々な話ができ大変貴重な経験になりました。ありがとうございました。自分もいずれはユース活動を支える大人になりたいなと改めて思いました。

学生の頃ピアカウンセリング・ピアエデュケーション活動をしていたので、それを自分自身のライフステージの中で関わっていきいたい!!という希望を持った人材がこれからどんどん増えていくのでは?と思います。そういう希望を持った仲間と今現在ピア活動を支えて下さっている皆さんとが連携をとり、更にピア活動が日本中に世界中に根付いていくといいですね。

自治医科大学卒業4期生

小林雅矢



日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1
自治医科大学地域医療学センター 公衆衛生学部門
電話 0285-58-7338
FAX 0285-44-7217
発行人 高村寿子 編集人 前田ひとみ
年3回発行 <http://www.iccaea.net/>